令和3年度活動計画

ニュース編集委員会

ニュース編集委員長　岩田展幸

原稿依頼とニュース発送までの流れは従来通りで、下記を予定しています。

2021年2号
（記事内容:「やあ　こんにちは」ほか通常記事）
5月原稿依頼済み→7月中に発行・発送予定

2021年3号
（記事内容:第31回日本MRS年次大会、MRM2021告知／A2ポスター形式を予定）
8月ポスター原案作成依頼→9月下旬～10月中旬に発行・発送予定

2021年4号
（記事内容:「やあ　こんにちは」ほか通常記事、第31回日本MRS年次大会・MRM2021詳細）
9月原稿依頼開始→11月中旬に発行・発送予定

2022年1号
（記事内容:「やあ　こんにちは」、第31回日本MRS年次大会・MRM2021開催報告ほか）
12月原稿依頼開始→2月中に発行・発送予定

2021年2号よりカラー印刷にて発行予定

令和3年度活動計画

広報･情報委員会

広報･情報委員長　青木学聡

- アクセス履歴分析に基づくWebページ構成の見直し
  - ユーザー導線、コンテンツ利用状況の分析
  - DMでのイベント案内に対する応答

- SNSを活用した情報発信の検討
  - 平時の情報発信
  - 年次大会等イベント開催時のリアルタイム情報発信

- プレゼンスを高めるWebコンテンツ発信の検討

令和3年度活動計画

チュートリアルの動画配信

対応窓口　白谷正治

令和 2 年度第 2 回定例理事会（2020.12.12） 議事録より
MRM チュートリアル動画配信の規定について(2 号議案)
※TMRSJ 休刊後の代替サービス 資料を基に、MRM チュートリアル動画配信の規定について提案され、異議なく決定され た。(白谷副会長)

改訂前:
(Web 公開)動画等の Web 公開は会員へのサービスの一つとし、会員のみに公開する。改訂後:
(Web 公開)動画等の Web 公開は会員へのサービスの一つとし、MRS-J が運営または提 供するインターネット等による配信サービスにおいて公開する。

MRM チュートリアル動画の講師から、動画を入手して活用したいといった要望が出てい ることに対し、他学会の HP や会員への視聴など、不特定多数への公開はできないが、講師自身が視聴したり限定的な利用は認めたいので、別途相談という形を取りたい。対応窓口は白谷副会長にお願いする。』

令和3年度活動計画

MRM Forum 2020 チュートリアルの動画配信　(会員向けサービス)

- TU−1 放射光、中性子、ミュオンの応用研究の実際と利用について
- TU−2 物質・材料研究の課題解決へつながるマテリアル・インフォマティクスの基礎と応用
- TU−3 計測データと情報科学を融合した材料開発の基盤構築と応用事例
- TU−4 ペロブスカイト太陽電池の高電圧・高効率化とドーパント不要の正孔輸送材料を使った耐久性改善について
- TU−5 鉄鋼におけるマルテンサイト活用の歴史～超々ハイテン時代へ～
- TU−6 持続可能な社会におけるプラスチック
- TU−7 触媒技術が可能にする新たな炭素資源活用
- TU−8 機能性材料研究のための蛍光X線ホログラフィ技術

令和 2 年度第 2 回定例理事会（2021.5.21）にて、
編集委員会（ BulletinとMRMチュートリアルを担当）が担当することが合意され、
チュートリアル担当理事を、R3定例理事会（2021.6.12）にて決定する。

MRS-J
The Materials Research Society of Japan

令和3年度活動計画

国立高専機構—日本MRS連携推進委員会　　連携推進委員長：佐藤貴哉

（実施計画）

1．第6回　全国高専生サミット　内優秀発表審査にゲスト審査員派遣
　場所：鶴岡工業高等専門学校（山形県鶴岡市井岡字沢田104）
　開催日：2021年8-9月予定（2泊3日）

　ゲスト審査員として、伊熊先生に、MRS-Jの代表として出席いただく予定。
　優秀発表者を第31回日本MRS年次大会に招待し、口頭発表を依頼する予定。
　(旅費等はシンポジウム助成金で賄う予定）
　※コロナウィルス感染の状況によっては実施をオンライン形式で行う場合もある。

2. 第6回全国高専生サミット（第一ブロック）において、加納先生を中心としたスタッフによる高専生向け材料科学WSを行う。
　※コロナウィルス感染の状況によっては実施をオンライン形式で行う場合もある。

3. 第31回　日本MRS年次大会　高専オーガナイズのシンポジウム開催
　連携推進委員会メンバーを中心に、2件のシンポジウムを企画・運営する予定。

4. 申請中の「子ども夢基金」が採択された場合は、対面の場合は鈴鹿、大分「MRS-J大実験室」で実施世の予定。二か所で会場確保、参加者募集、当日の運営等を進めていく。
　※コロナウィルス感染の状況によっては実施をオンライン形式で行う場合もある。

令和3年度活動計画

国立高専機構—日本MRS連携推進委員会　　　連携推進委員長:佐藤貴哉

（予算計画）

◆鶴岡開催の高専生サミット優秀　発表ゲスト審査員派遣。

◆鶴岡開催の高専生サミット（＋材料科学WS）実験室の開催経費

前々年度と同じ開催場所、開催規模を予定しているので、上記イベントの費用として前年度実績と同じ￥160,000-の予算計上をお願いしたい。

「こども夢基金」からの助成金と合わせて、参加者を拡大して実施する計画である。

◆優秀発表者の年次大会招待経費（学生と引率教員（2～3高専）の旅費と宿泊費）
シンポジウム助成金で賄う予定。

令和3年度活動計画

表彰委員会

委員長 手嶋勝弥

1. 若手奨励賞の奨励賞対象者について

対象：学生 （従来：若手研究者） 経緯：最近の若手奨励賞では，応募者数の観点から，若手研究者・学生などの区別がなく，学生がPDや若手教員と同じ括りで審査されるため，学生が受賞しにくい環境である。さらに，今年から年次大会自体の若返りも図られており，特に学生にフォーカスする。

令和2年度臨時理事会（ R3.5.21 ）の決定に基づき改訂

実施要綱
日本MRS表彰委員会
日本MRS表彰委員会（以下 表彰委員会とする。）
表彰委員会委員長並びに副委員長はMRS-J理事会から推薦された理事が務める。

若手奨励賞実施要綱
若手奨励賞について
若手奨励賞選考委員会（以下 選考委員会とする。）
選考委員会委員長並びに選考委員会副委員長は表彰委員会から推薦され、理事会で承認された者が夫々務める。
選考委員会委員長の任期は1年とし、次年度は選考委員会副委員長が選考委員会委員長を務めるものとする。

選考委員の推薦依頼
1) 各シンポジウムオーガナイザーへ当該分野の選考委員の推薦を依頼する。
2) シンポジウム毎に3名以上、このうち1名が主査を務める。選考委員の数は、口頭発表およびポスター発表の表彰候補者数、専門性を考慮し、シンポジウムに委任する。ただし、60分あたり、1人の選考委員で評価できる発表数は6件（120分で12件）程度が限度であることに留意する。個々の選考委員がどの発表を評価するかの割り振りは、シンポジウム毎に決める選考委員主査に委任する。なお、選考委員主査および選考委員を主オーガナイザー並びに副オーガナイザーが兼ねることは妨げない。
3) 各オーガナイザーは、あらかじめ各選考委員あてに評価フォーム（発表番号・名前入）、選考規程、細則を送付する。
発表当日以降の選考スケジュール（口頭発表、ポスター発表を含む）
1) 各シンポジウムは事前に、選考委員主査と合議の上、各選考委員に発表番号と名前が記入済みの評価フォームを送付しておく。評価フォームは、Webシステムよりダウンロードして使用する。
2) 各選考委員は規定ならびに細則に従って、シンポジウム毎の発表時間内に評価を行い、シンポジウム終了後は速やかにそのフォームを選考委員主査に提出する。

令和3年度活動計画

3) 選考委員主査は、シンポジウム終了後所定時間内に、Webシステムを用いて受賞候補者リストを選考委員会委員長に提出する。
4) 選考委員会委員長は、全シンポジウムの結果をとりまとめ、受賞者を仮決定し、1次報告書を作成する。
5) 選考委員会委員長は1次報告書を再度選考委員主査に送付し、主査確認後、受賞者を仮決定した2次報告書を作成する。なお、この2次報告書までは主査意見が反映される。
6) 選考委員会委員長は2次報告書を表彰委員会委員長に提出し、表彰委員会委員長の判断をもって最終決定し、受賞者を決定する。
7) 表彰委員会委員長は最終受賞者決定報告書を作成し、理事会に報告する。

選考結果の公表、表彰状の授与、MRS-J Bulletinへの掲載
1) 受賞者の名前・所属を「日本MRSニュース」に公示することを持って選考結果の公表とする。
2) 受賞者には講演タイトルと受賞者氏名を記入した賞状等を本人宛に郵送する。
3) 受賞者には提出されたダイジェストがMRS-J Bulletinに掲載される旨を通知する。

若手奨励賞規定
1. 本規定は日本MRS（以下、本会）が学生に対して行う表彰に関して定めたものである。
2. 本表彰は、本会が定期的に開催する年次大会で優秀な発表（口頭発表あるいはポスター発表）をした学生個人に「若手奨励賞」を授与し、その功績を称えることを目的とする。
3. 表彰対象は本会が定期的に開催する年次大会で口頭発表あるいはポスター発表した学生であり、以下の全ての要件を満たす者とする。
(1)論文の登録発表者、(2)実際に発表した者、(3)発表申込時に若手奨励賞への申込をした者、(4)ダイジェストを提出した者。
4. 学生については以下のように区分し、区分毎に表彰者を決定する。ただし年齢を問わない。
(1)学部学生、(2)大学院修士課程（博士前期課程）の学生、(3)大学院博士課程（博士後期課程）の学生
5. 選考委員会は、シンポジウム毎に表彰候補者の数の10%程度を授賞候補者として選び、表彰委員会が最終決定する。なお，10%程度を算出する際には，若手奨励賞に申込をした総数に対して10%程度(小数点以下は六捨七入)とする。ただし，表彰候補者数，受賞候補者数のいずれにも招待講演者数を算入しない。
6. 理事会は表彰委員会の最終決定報告書を確認する。
7. 受賞者には会長名の賞状を授与し、受賞者氏名・所属を「日本MRSニュース」に公示する。
8. MRS-J Bulletin に受賞者のダイジェストを掲載する。
9. 本規定は理事会の承認を経て改定することができる。
10.本賞の英文名称は次の通りとする。

Award for Encouragement of Research in Materials Science;
The Materials Research Society of Japan

令和3年度活動計画

若手奨励賞選考細則

若手奨励賞選考委員会

1) 選考委員会は、表彰委員会推薦の選考委員長、選考副委員長に加えて、年次大会を構成する各シンポジウムのオーガナイザーから推薦された各3名以上の選考委員とから構成される。

2) 選考委員の推薦方法は各シンポジウムオーガナイザーに委任する。ただし、選考委員は当該分野に見識のある研究者とする。推薦リストをもとに選考委員会では委員を委嘱する。委嘱された委員は、当該シンポジウムで発表された表彰候補発表（口頭発表あるいはポスター発表）について評価を行い、選考委員会に報告する。

3) 選考委員会委員長は評価結果をとりまとめ、表彰委員会委員長に報告し、表彰委員長が最終決定する。

受賞者の数

選考委員会は、シンポジウム毎に表彰候補者の数の10%程度を授賞候補者として選び、表彰委員会に推薦する。表彰委員会が最終決定し、理事会に報告する。なお，10%程度を算出する際には，若手奨励賞に申込をした総数に対して10%程度(小数点以下は六捨七入)とする。ただし，表彰候補者数，受賞候補者数のいずれにも招待講演者数を算入しない。また、受賞候補者の少ないシンポジウムを複数集合して受賞者を選考するシンポジウム合同審査は実施しない。

評価項目：以下の6つの項目について評価する。

ダイジェストの表現度：内容や論点を的確にまとめているか？

発表の理解度：内容を十分に理解しているか？質疑応答が適切になされているか

発表あるいは説明の態度：聴講者に内容を的確に説明しているか？

発表あるいはポスターの構成・表現：見やすいか？よく整理されているか？

研究内容：十分に考察されているか？

総合：総合的に見て、優秀な発表であるか？

2014年6月20日改訂
2018年6月15日改訂
2020年3月21日改訂
2020年8月4日改訂
2021年5月21日改訂

上記の項目について、選考委員毎に10段階で絶対評価（9・10：非常に優れる、7・8：優れる、5・6：普通、3・4：やや努力を要する、1・2：努力を要する）する。

選考手順

1) シンポジウム毎に3名以上の選考委員の中から1名の主査を選出する。

2) 専門性を配慮し、1つの表彰対象論文に対し、3名の選考委員を選定する。

3) 選考委員が共著の論文は、当該委員は評価できない。その場合、専門性を考慮し、やむをえず代替の選考委員が充当できないとき、他2名の選考委員の評価平均点を評価点として加算する。

4) 3名の選考委員の評点の合計点等をもとに、シンポジウム毎に受賞候補者の推薦順位を決定し、主査はWEBシステムを用いて選考委員会委員長に報告する。

5) 選考委員会委員長より仮決定した受賞者一覧を表彰委員会委員長に提出する。表彰委員会委員長が確認した後、選考委員会委員長に報告され、引き続き、各シンポジウムの選考委員主査にフィードバックされる。内容について最終確認を得て、受賞者を仮決定（受賞予定者を決定）する。

理事会への報告

＜以下変更なし＞

令和3年度活動計画

2．選考委員長と選考副委員長について

表彰委員長・副委員長が各イベントごとにCo-Chairを選定する。

2021年5月臨時理事会以降（2021年度について：移行期）

日本MRS表彰委員会
表彰委員長(Chair) 副委員長(Sun-Chair)
各イベントの選考委員長の推薦，規定(要綱)の評価・確認＋選考結果の妥当性の確認
→最終決定(承認)は表彰委員会とし，理事会への報告事項とする。
ただし，選考委員長の決定や大幅な規定(要綱)改訂等，審議の必要性がある場合は理事会審議とする。

イベント1：**第31回年次大会**
選考委員長：**佐藤**，副委員長：**渡邉**
規定の決定＋選考＋選考結果の表彰委員会への報告

イベント2：**MRM2021**
選考委員長：**渡邉**，副委員長：**佐藤**
規定の決定＋選考＋選考結果の表彰委員会への報告

イベント3：**？？？**
選考委員長：Z1，副委員長：Z2
規定の決定＋選考＋選考結果の表彰委員会への報告

表彰状は，会長名(もしくは会長名＋表彰委員会委員長名)とする。
IUMRSのイベントでは，IUMRS会長が入っても良いが，その都度判断(イベント規定にもよる)する。

IUMRS対応委員会

IUMRS対応委員長　松下伸広

1．IUMRS関連会議の開催状況・予定

IUMRS 新HP：http://iumrs.webdesign88.com/about-us/adhering-bodies/

Dates and Venues of IUMRS Conferences

Year	ICAM	ICEM	ICA	ICYRAM
2023	18th: Singapore/MRS-S (postponed to 23-28 June 2024)		23nd: MRS-J (to be confirmed)	
2022		18th: Xiamen/C-MRS (postponed to 2023)	22nd: MRS-I (to be confirmed)	6th: Kyushu/MRS-J (3-6 August 2022)
2021	17th: Cancun/M-MRS (postponed to 2022)		21st: Jeju/MRS-K (postponed to 3-8 Oct 2021)	
2020		17th: Iguazu FAll/B-MRS (postponed to 28 Aug-2 Sept 2021, virtual)	20th: Chiang Mai/MRS-Th (took place in Feb 2021)	5th: Poland/E-MRS (postponed)
2019	16th: Nice/E-MRS		19th: Perth/A-MRS	
2018		16th: Daejeon/MRS-K	19th: Bali/MRS-Ina	4th: Adelaide/A-MRS
2017	15th: Kyoto/MRS-J		18th: Taipei/MRS-T	
2016		15th: Singapore/MRS-S	17th: Qingdao/C-MRS	3rd: Bangalore/MRS-I
2015	14th: Jeju/MRS-K		16th: Singapore/MRS-S	
2014		14th: Taipei/MRS-T	15th: Fukuoka/MRS-J	2nd: Haikou/C-MRS
2013	13th: Qingdao/C-MRS		14th: Bangapore/MRS-I	
2012		13th: Yokohama/MRS-J	13th: Busan/MRS-K	1st: Singapore/MRS-S

令和3年度活動計画

IUMRS-HPの構築

http://iumrs.webdesign88.com/about-us/adhering-bodies/

1. 2020年8月頃からYuan Ping Feng (MRS-Sg)を中心に制作開始。
   当初はElton Kaufmannが情報集め。
   コンテンツはECメンバーが分担収集。

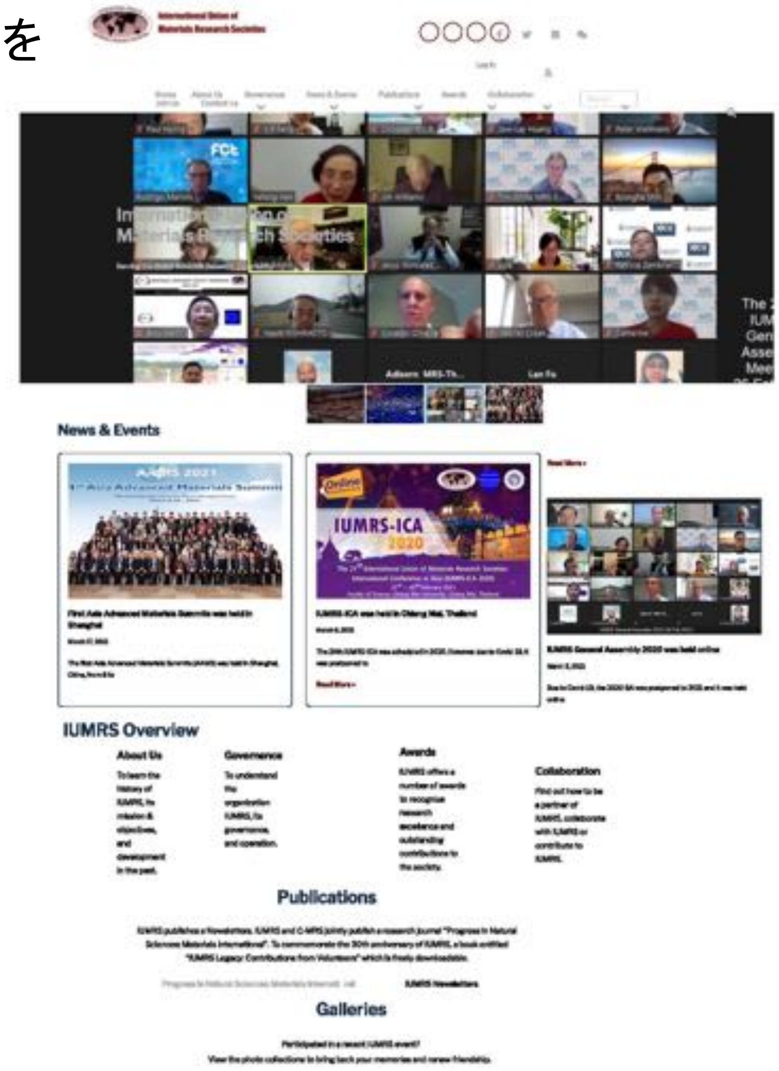
2. 2021年初めより、HP業者を利用。
   初期費用300万円、更新5万円/月

3. 同5月には一応完成。
   更新投稿は
   Prof. Yuan Ping Feng phyfyp@nus.edu.sgへ

4. MRS-J Adhering Bodyの情報は要チェック。

事務局:

Catherine Leng catherine@mrs.org.sg
IUMRS Head Office



令和3年度活動計画

第31回日本MRS年次大会　組織委員長・高井まどか　実行委員長・手嶋勝弥

MRM2021開催準備

MRM2021事務局長　鈴木淳史

令和3年度活動計画

基調講演

5講演
米：2
欧：1
日：1
中：1

PLENARY TALKS

Plenary talks by these outstanding researchers will be held on cross-cutting and rapidly advancing themes focusing on this conference.

More Information

電子機能材料・薄膜

Judith Driscoll

University of Cambridge, UK

有機オプトエレクトロニクス材料

Antonio Facchetti

Northwestern University, USA

DDS・生体材料

Kazunori Kataoka

iCONM, Kawasaki Institute of Industrial Promotion

結晶構造予測・大規模電子構造計算

Yanming Ma

Jilin University, China

準結晶・理論物理学

Paul Joseph Steinhardt

Princeton University,USA

令和3年度活動計画

8クラスター・36シンポジウム

Clusters & Symposia

A New Materials Methodology for Next-Generation
- STAM Methods: Leading-Edge Methods for New Materials
- Materials Integration: Prediction and Design for Structural Materials through Data Science
- Novel Functions in Advanced Materials Probed by Spin Polarized Quantum Beams
- New Methodology for Developing Innovative Materials

B Fundamentals of Novel Structure of Materials
- Hypermaterials
- Chirality in Materials–Physical Aspect
- Chirality in Materials-Chemical Aspect
- Recent development of novel ferroelectric materials, from fundamentals to applications

C Structural Materials Based on New Principles
- Fundamental Issues of Structural Materials
- Materials and Fabrication Processes for Automobiles
- Nanomechanics

D Frontiers of Advanced Electronic Materials
- Photovoltaics and Optoelectronics Consisting of Perovskite and Related Materials
- Frontier in Functional Oxides and Related Materials: from Materials Design to Device Applications
- Defect Functionalized Energy and Electronic Materials
- Synchrotron Radiation Based Materials Research: Present and the Future
- Properties and Characterizations of Functional Surfaces and Interfaces
- Fundamental strategies for high-performance flexible semiconductors

E Energy Science and Technologies
- Battery Mat… tainability
- Science and … of Superconductivity
- Advanced Analysis for Fuel Cell Materials and Technologies
- Progress and Prospect of Energy Harvesting Materials
- Hydrogen in Functional Materials II

F Zero Emission Technologies
- Carbon Neutral and Sustainable Circulation Technology
- Catalysis for Carbon Recycling
- Advanced Water Science and Technology
- Separation Technology for Future Energy and Global Environmental Preservation
- Design of Heterogeneous Catalysis

G Biomaterials and Softmaterials
- Advanced Biomaterials
- Nano-biotechnologies on Interfaces
- Imaging and Spectroscopy for Biomaterials, Live Cells and Tissues
- Advanced Materials for Biomedical Engineering

H Innovative Materials Processing for Sustainable Society
- Smart Processing
- Plasma-Based Synthesis, Processing and Characterization of Materials for Energy and Environment
- Innovative Process and Materials Design via a Comprehensive Multiscale or Nano/Micro/Macro-Scale Fabrication Approach
- Smart Laser Processing for Green Technologies
- Innovative Material Technologies Utilizing Ion Beams

QOL 【Life】
DX 【Digital】
SX 【Sustainable】

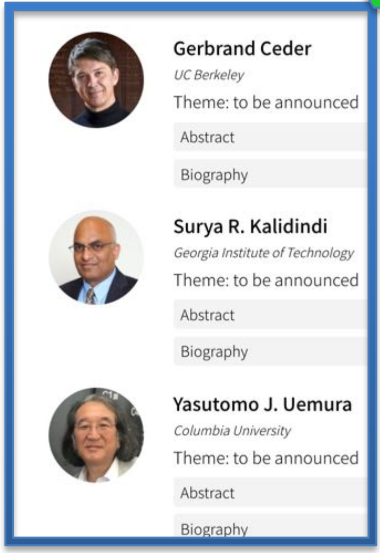
講演申し込み状況(6/12)

プレナリー:5, クラスターキーノート:35, オーラル+ポスター(含招待):約1200
Award申し込み:約350 外国からの参加者:約200

令和3年度活動計画

クラスター・キーノート

A

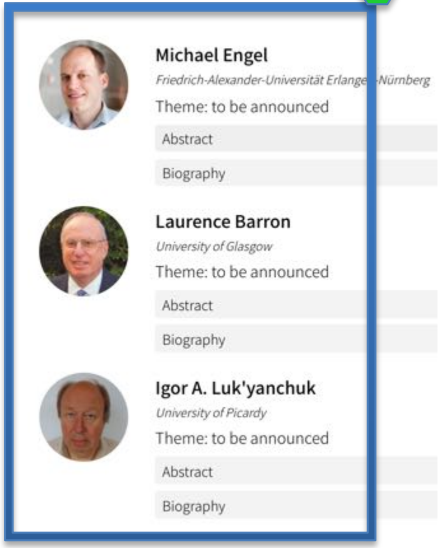


Gerbrand Ceder
UC Berkeley
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Surya R. Kalidindi
Georgia Institute of Technology
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Yasutomo J. Uemura
Columbia University
Theme: to be announced
Abstract
Biography

B

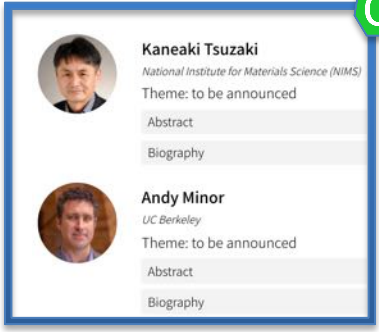


Michael Engel
Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Laurence Barron
University of Glasgow
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Igor A. Luk'yanchuk
University of Picardy
Theme: to be announced
Abstract
Biography

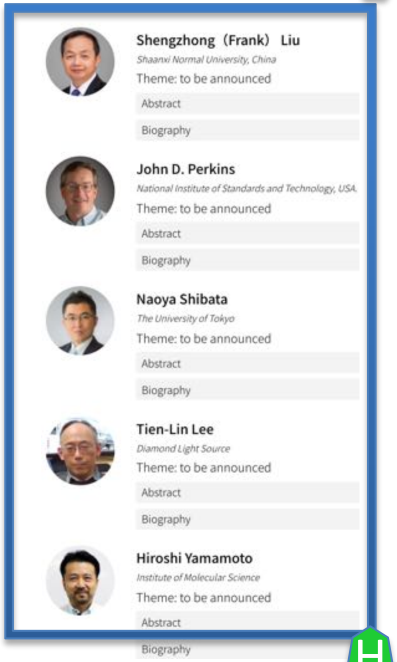
C



Kaneaki Tsuzaki
National Institute for Materials Science (NIMS)
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Andy Minor
UC Berkeley
Theme: to be announced
Abstract
Biography

D



Shengzhong（Frank） Liu
Shaanxi Normal University, China
Theme: to be announced
Abstract
Biography

John D. Perkins
National Institute of Standards and Technology, USA
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Naoya Shibata
The University of Tokyo
Theme: to be announced
Abstract
Biography

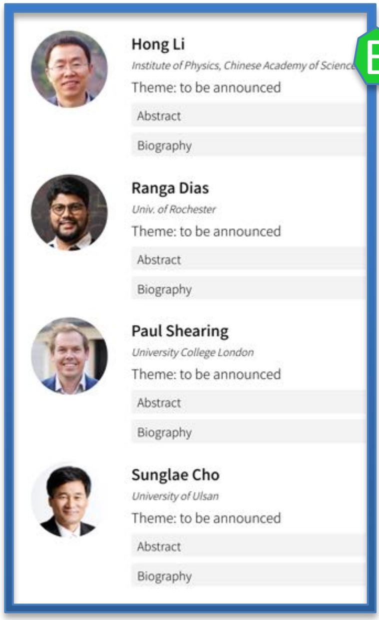
Tien-Lin Lee
Diamond Light Source
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Hiroshi Yamamoto
Institute of Molecular Science
Theme: to be announced
Abstract
Biography

28講演

米：7	中：3
欧：5	台：2
日：7	韓：2
豪：1	新：1

E



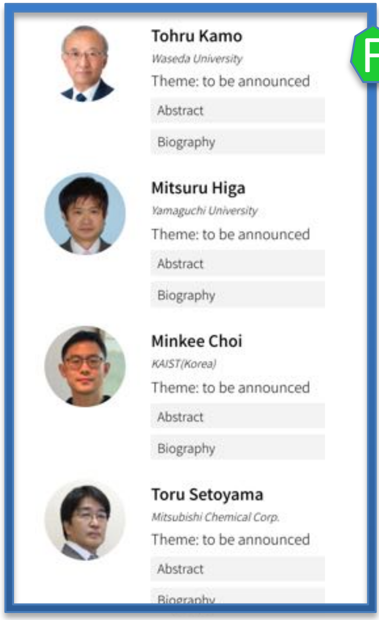
Hong Li
Institute of Physics, Chinese Academy of Science
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Ranga Dias
Univ. of Rochester
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Paul Shearing
University College London
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Sunglae Cho
University of Ulsan
Theme: to be announced
Abstract
Biography

F



Tohru Kamo
Waseda University
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Mitsuru Higa
Yamaguchi University
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Minkee Choi
KAIST(Korea)
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Toru Setoyama
Mitsubishi Chemical Corp.
Theme: to be announced
Abstract
Biography

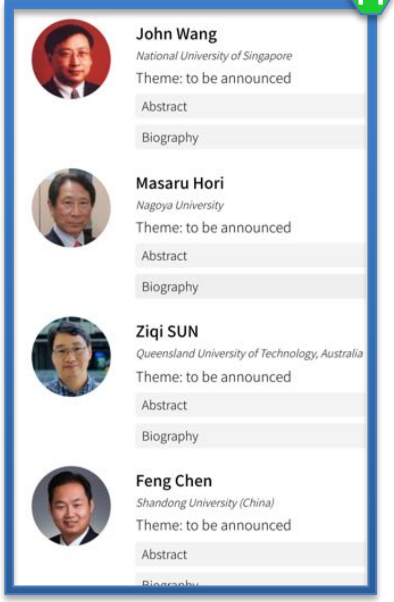
G

Seung-Wuk Lee
UC Berkeley, USA
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Hiro-o Hamaguchi
National Chiao Tung University
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Akon Higuchi
National Central University
Theme: to be announced
Abstract
Biography

H



John Wang
National University of Singapore
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Masaru Hori
Nagoya University
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Ziqi SUN
Queensland University of Technology, Australia
Theme: to be announced
Abstract
Biography

Feng Chen
Shandong University (China)
Theme: to be announced
Abstract
Biography

令和3年度活動計画

開催形態

HP掲載

IMPORTANT NOTICE:

MRM2021 will take place as a face-to-face meeting, and all events will be held at the venue in Yokohama. Authors who have submitted abstracts will be asked to deliver in-person presentations (oral or poster) of their work; however, they can present virtually if they cannot travel in December due to COVID-19. All meeting attendees will be able to participate in the meeting in-person and virtually. We look forward to a successful MRM2021 and appreciate your continued support.

リアル開催を原則とする。 ただし、
会場に来られない方については、オンラインにて講演可能

オーラル会場はハイブリッド
プレナリー＋クラスター合同セッション：映像会社
一般シンポジウム：ディレクター1＋アルバイト（学生など）

ポスターはリアル実施を原則とし、状況の悪化により来場できない
方のためのオンライン開催を、リアルとは別の時間帯に開催

MRS-J
The Materials Research Society of Japan

MRM Forum 2021開催について

総合討論　ここでは、日本の材料研究について解決されるべき複合的課題に対する総合討論を実施します。
2020テーマ
「日本の材料研究の現状と課題・その解決の糸口を探る」

公開討論　ここでは、多様な分野における先進材料研究と高度材料技術に関する公開討論として次の3つのテーマを取り上げます。
2020テーマ
「水に関連する材料技術とその革新」
「情報科学との結合による材料研究の革新～現状と課題」
「"元素"から物質・材料へ」

言語：日本語

チュートリアル　本学会中のコンテンツをより深く理解するための講義
2020テーマ：8+8テーマ

特別セミナー　高校・高専との連携

MRM Forum 2021: 2021年12月11日～12日
MRM2021:　　　　2021年12月13日～17日

パシフィコ横浜会議センター（ノース）